

都市再生整備計画事業 事後評価シート
大野町南部(2期)地区

令和2年3月

岐阜県大野町

※記入にあたっての留意事項(このページは、提出の際には添付する必要はありません。)

本様式の記入にあたって、下記の点に留意してください。

1. モニタリング(一部の結果)・事後評価・フォローアップの3段階について、記入欄を色分けで区分しています。それぞれの結果を該当欄に記入してください。

段 階	内 容	時 期	記入欄の 色分け
《第一段階》モニタリング	事業期間中に、実施状況、数値目標の達成状況、効果発現の状況を確認する	交付期間中の 任意の時期	
《第二段階》事後評価	評価項目の計測（見込みの値でも可）、効果発現に関わる要因、今後のまちづくり方策等を整理する	最終年度	
《第三段階》フォローアップ	事後評価時に「見込みの値」としたものに対して、事業終了後に、確定した数値で再度整理する	原則、交付終了の翌年度	

2. 記入項目の詳細や記入例については「事後評価シート作成の手引き」を参照してください。
3. 記入欄が不足する場合には、適宜、欄(枠)を拡張するなどして記入して下さい。
4. 国への提出後、必要に応じて再提出等のために修正を行う場合は、従前の記載内容は削除せず、消し線を用いて下さい

例1)数値等の軽微な修正

【修正前】 ○○整備事業 面積 2,300㎡

【修正後】 2,800㎡

例2)文章の修正

【修正前】 ……するものとし、特に、●●館のイベント等に関する情報を発信していくものとする。

【修正後】 特に、●●館のイベント等に関する最新情報をリアルタイムでHP上から提供していくものとする。

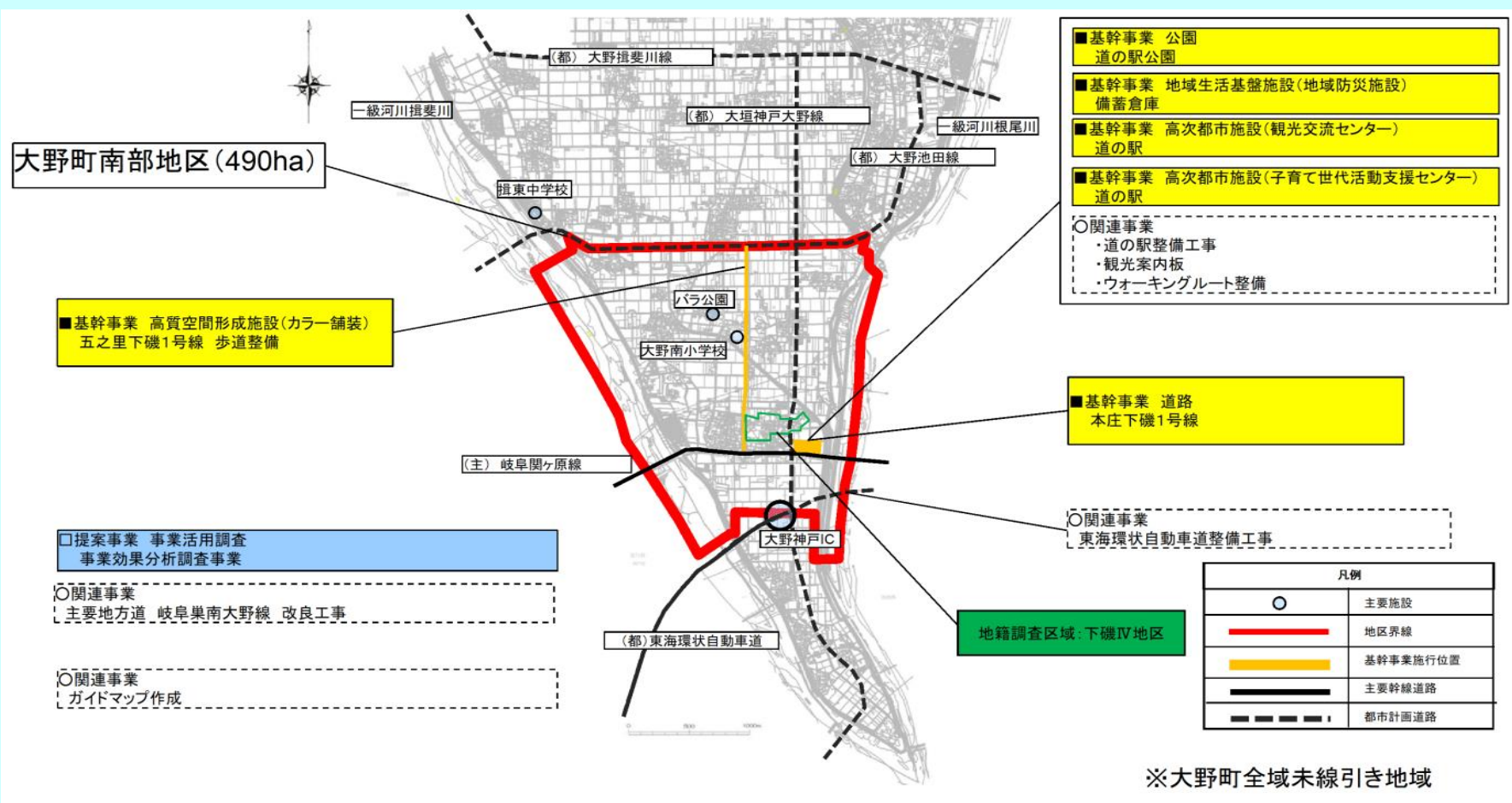
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県		市町村名	大野町		地区名	大野町南部(2期)地区			面積	490ha		
交付期間	平成28年度～令和元年度		事後評価実施時期	令和元年度		交付対象事業費	1550百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	道路(本庄下礪1号線)、公園(道の駅公園)、地域生活基盤施設(地域防災施設・備蓄倉庫)、高質空間形成施設(カラー舗装・五之里下礪1号線歩道整備)、高次都市施設(観光交流センター・道の駅)									
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
			基幹事業	地域生活基盤施設(情報板・①観光案内板)、高質空間形成施設(カラー舗装・②加納下礪2号線花田川堤防散策道整備、カラー舗装・③本庄下礪1号線散策道整備)			①、②他の関連事業で実施したため事業削除、③ウォーキングルート変更により当該路線の事業削除			指標への影響が懸念されるが、指標への影響を推計する根拠データが不足しているため、目標値は据え置く。			
	新たに追加した事業		提案事業	①ガイドマップ作成、②レンタサイクルポート、③スタンプラリーの開催			①、②、③計画変更により削除			指標への影響が懸念されるが、指標への影響を推計する根拠データが不足しているため、目標値は据え置く。			
			基幹事業	高次都市施設(子育て支援センター・道の駅)			子育て支援施設の新設に伴う新規追加			指標への影響が懸念されるが、指標への影響を推計する根拠データが不足しているため、目標値は据え置く。			
交付期間の変更		当初	平成28年度～平成31年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更	平成28年度～令和元年度										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	道の駅の年間利用者数	人/年	0	H27	500,000	R1	-	416,109	△	あり	道の駅整備事業は大きな効果があった。大野神戸インターチェンジはR1年12月14日に開通したが、開通して間もないことから、年間の利用者数の増加分までは至っていないものの、今後の利用者数の増加が見込まれる。なお、西回りルートが全線開通することによる、利用客数の減少対策として道の駅の魅力度をアップさせることが重要である。	令和元年岐阜県観光入込客統計調査結果が公表され次第実施
	指標2	防災拠点の住民満足度	%	9	H24	20	R1	-	31	○	あり	大野町南部に防災拠点となる道の駅「パレットピアおおの」を整備したことにより、防災拠点の住民満足度の増加に貢献した。	-
指標3	バラまつり来訪者数	人	44,000	H27	80,000	R1	-	45,500	△	あり	過年度と比較し、バラまつりの来場者数が増加している点は評価できる。バラまつり開催期間が例年と比較し短いこと、バラの開花時期が早く、見ごろの期間が少なかったことが要因の一つであると考えられる。また、バラまつりの直前の大型連休に来場者が多かったことから、バラまつり期間中の来訪者が少なくなったことが考えられる。	-	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	路線バスの停留所数	箇所	69	H27	/		-	71	/	/	道の駅の開駅に伴い、新たな停留所が整備されたことによる、公共交通機関の充実と交通の利便性の向上が図られた。	/
その他の数値指標2	道の駅(子育て支援センター)の利用者数	人/年	0	H27	/		-	70,000	/	/	道の駅(子育て支援センター)の開園に伴い、町内外からの利用客の交流が促進され、賑わいのあるまちづくりの創出が図られた。	/	
4)定性的な効果発現状況	・道の駅「パレットピアおおの」の整備は、農業振興、雇用創出、地域活性化に貢献している。 ・道の駅「パレットピアおおの」は自治体職員・議員による視察の受け入れ件数も多く、全国から注目を集めている。日経BP総研の調査によると、2018年度に新しくスタートした事業のうち自治体職員・議員による視察数が全国一位である。												
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況									今後の対応方針等	
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	住民参加プロセス	芝生の植栽イベント	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									●	引き続き、住民参加のもと、計画的なまちづくりを推進していく。
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											

様式2-2 地区の概要

大野町南部(2期)地区 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標: 大野町の観光拠点やアクセス条件を生かした交流の活性化による、活気と魅力にあふれたまちづくり 目標1: 地域の交流拠点となる道の駅の整備を行い、観光客及び地域住民の交流の場の創出による活力あるまちづくり 目標2: 防災拠点の整備を行い、町南部地域の防災機能を強化した安心安全なまちづくり 目標3: 観光拠点整備に伴う周辺の一体整備による、連続性のある効率的なまちづくり	道の駅の年間利用者数	単位: 人/年	0 H27	500,000 R1	416,109 R1
	防災拠点の住民満足度	単位: %	9 H24	20 R1	31 R1
	バラまわり来訪者数	単位: 人	44,000 H27	80,000 R1	45,500 R1



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅(公園、観光交流センター、子育て支援センター)の整備により、休憩施設や地域交流施設に加え子育て支援施設が整備された。 道の駅の整備により、地域住民と観光客が交流できる場が創出されたことから、活力に満ちた魅力あるまちづくりを目指す必要がある。 道の駅(公園、備蓄倉庫)の整備により、地域住民の防災に関する満足度が向上した。 道路(本庄下磯1号線)の整備により、町内の観光施設をつなぐ周遊ルートが整備され、回遊性が向上した。 道の駅の整備により、公共交通機関の充実が図られ、町内外の交通の利便性が向上した。 道の駅(観光交流センター)の整備により、町内の観光施設及び文化施設の情報を一層PRする場が確保できた。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 主たる基盤整備(ハード)は達成されたため、今後は地域住民と協働した、活用(ソフト)の検討が重要である。 定期的なイベントの開催や、自発的な活動を支援するソフト事業を実施する。また、利用者ニーズに応じた、商品の販売、情報の提供を行い、魅力度をアップさせる。 定期的な道路の清掃活動、管理を実施する。また、地域の目を活用した道路のメンテナンスサポートの促進を図る。 道の駅の利用者数を増加させるために、PRの強化や各種施設、イベントとの連携により魅力度の促進を進める。 PR方法のさらなる強化のために、町外施設との連携や、HP、SNS等での情報発信を行う。 <p>⇒『だれもが集える「道の駅」プロジェクト』に関連する部署が一体となって、プロジェクトを強力に推進する</p>

都市再生整備計画事業 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		指標「道の駅の年間利用者数」の数値目標について、400,000人/年を目指す。	数値目標を500,000人/年に上方修正。	大野神戸インターチェンジの開通に伴う自動車交通量の増加及び観光プロモーションの推進によるPR効果により、道の駅の年間利用者数が100,000人増加すると推定し、500,000人/年とする。
D. その他(目標年度)	●		指標「道の駅の年間利用者数」、「防災拠点の住民満足度」、「バラまつり来訪者数」の目標年度をH31とする。	目標年度をR1に修正。	

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	本庄下礪1号線	50	L=250m	63	L=250m	掘削影響による上水道本管移設費用の増工	影響なし	●	
公園	道の駅公園	146	A=5,000㎡	218	A=5,000㎡	屋根付回廊整備(リング)を新規追加	道の駅の年間利用者数に影響するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	観光案内板	7	—	—	—	他の関連事業で実施したため事業削除	影響なし	—	—
地域生活基盤施設	備蓄倉庫	8	—	3	—	倉庫規模の縮小見直しにより事業費減	影響なし	●	
高質空間形成施設	五之里下礪1号線歩道整備	40	L=1,700m	12	L=1,700m	区間の一部を他の関連事業(町単)で実施したため、事業費減	影響なし	●	
高質空間形成施設	加納下線2号線花田川堤防散策道整備	10	L=1,100m	—	—	他の関連事業(ウォーキングルート整備)にて実施したため事業削除	影響なし	—	—
高質空間形成施設	本庄下礪1号線散策道路整備	10	L=680m	—	—	ウォーキングルート変更により当該路線の事業削除	影響なし	—	—
高次都市施設	道の駅(観光交流センター)	970	A=25,000㎡	1,147	A=15,200㎡	建物規模の見直しによる建築事業費増	影響なし	●	
高次都市施設	道の駅(子育て支援センター)	—	—	104	A=357㎡	子育て支援施設の新設に伴う新規追加	影響なし	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	ガイドマップ作成	2	—	—	—	計画変更により、削除	影響なし	—	—
	レンタサイクルポート	3	—	—	—	計画変更により、削除	影響なし	—	—
	スタンプラリーの開催	3	—	—	—	計画変更により、削除	影響なし	—	—
事業活用調査	事業効果分析調査事業	1	—	3	—	業務委託による事業費増加	影響なし	●	
まちづくり 活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画			
	道の駅整備工事	下磯地内	—	—	平成25年～平成30年	変更なし	実施済み		
	ウォーキングマップ作成		—	—	—	平成28年～平成28年	実施済み	計画変更により追加	
	ウォーキングルート整備		—	—	—	平成29年～平成29年	実施済み	計画変更により追加	
	観光案内看板整備	下磯地内	—	—	—	平成29年～平成29年	実施済み	計画変更により追加	
	主要地方道 岐阜県南大野線 道路改良工事	下磯地内	—	—	平成24年～平成28年	変更なし	実施済み		
	東海環状自動車道整備工事	下磯地内	—	—	平成24年～平成31年	平成24年～令和1年	—		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	数値(エ)	達成度	あり	なし		
指標1	道の駅の年間利用者数	人/年	令和元年岐阜県観光入込客統計調査結果を大野町産業建設部観光企業誘致課より借用。	-	-	0	H27	500,000	R1	モニタリング		モニタリング		●
										事後評価	確定見込み ●	416,109	事後評価	
指標2	防災拠点の住民満足度	%	調査対象者:計画区域より200人+消防団20人 → 総数220人 調査方法:人選は各地区の区長に依頼。区長がとりまとめ後、アンケートを回収。	-	-	9	H24	20	R1	モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定見込み ●	31	事後評価	
指標3	バラまつり来訪者数	人	令和元年岐阜県観光入込客統計調査結果を大野町産業建設部観光企業誘致課より借用。	-	-	44,000	H27	80,000	R1	モニタリング		モニタリング		●
										事後評価	確定見込み ●	45,500	事後評価	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	事後評価の目標値は達成に至っていないが、R1.12月に大野神戸インターチェンジが開通しており、今後の目標の達成が期待される。なお、西回りルートが全線開通することによる、利用客数の減少対策として道の駅の魅力度をアップさせることが重要である。	
指標2	大野町南部に防災拠点となる道の駅「パレットピアおおの」を整備したことにより、防災拠点の住民満足度の増加につながった。	
指標3	事後評価の目標値は達成に至っていないが、毎年度の調査結果を確認すると着実に来訪者数は増加していることは評価できる。	バラまつりの開催日数は年度ごとに違っており、本年度は過年度と比較し開催日数が少なかったこと、バラの開花時期が早く、見ごろの期間が少なかったことが目標が達成できなかった要因の一つであると考えられる。また、バラまつりの直前の大型連休に来場者が多かったことから、バラまつり期間中の来訪者が少なくなったことが考えられる。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度		基準年度						
その他の数値指標1	路線バスの停留所	箇所	岐阜バス及び名阪近鉄バスの路線図より、バス停留所数を計測した。			69 (岐阜バス: 33 名阪近鉄バス: 36)	H27	モニタリング		71	道の駅の開駅に伴い、岐阜バス、名阪近鉄バスにおいて、新たな停留所が整備されたことによる、公共交通機関の充実と交通の利便性の向上を評価する。
								事後評価	確定 ● 見込み		
その他の数値指標2	道の駅(子育て支援センター)の利用者数	人/年	令和元年利用者数集計結果を大野町民生部福祉課より借用。			0	H27	モニタリング		70,000	指標1の道の駅の年間利用者数の代替指標として、賑わいのあるまちづくりの目標を評価する。
								事後評価	確定 ● 見込み		
その他の数値指標3								モニタリング			
								事後評価	確定 ● 見込み		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・道の駅「パレットピアおおの」の整備は、農業振興、雇用創出、地域活性化に貢献している。
 ・道の駅「パレットピアおおの」は自治体職員・議員による視察の受け入れ件数も多く、全国から注目を集めている。日経BP総研の調査によると、2018年度に新しくスタートした事業のうち自治体職員・議員による視察数が全国一位である。
 ・道の駅「パレットピアおおの」の整備により、職場体験など新たなイベントが開催されるようになったことで、賑わいのあるまちづくりが促進された。
 ・地域からの要望で、うどんなどの定食を販売するようになり、利用者ニーズを反映した道の駅、地域に愛される道の駅を目指している。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
芝生の植栽イベント	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	実施頻度:1回 実施時期:平成30年5月 参加人数:700人	今後も住民参加型のイベントを推進する。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備事業(大野町南部(2期)地区)事後評価 庁内検討会議	関係各課係長級職員(総務部総務課、民生部福祉課、産業建設部建設課、産業建設部農林課、産業建設部観光企業誘致課)	第1回 令和2年2月3日 第2回 令和2年2月13~14日庁内イントラネット によるやり取り)	産業建設部 観光企業誘致課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2							
指標名		防災拠点の住民満足度							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	本庄下礪1号線	○	大野町南部に防災拠点となる道の駅「パレットピアおおの」を整備したことにより、防災拠点の住民満足度の増加に貢献した。						
	道の駅公園	◎							
	備蓄倉庫	◎							
	五之里下礪1号線歩道整備	-							
	道の駅(観光交流センター)	○							
	道の駅(子育て支援センター)	○							
提案事業	事業効果分析調査事業(大野町南部(2期)地区)	-							
関連事業	道の駅整備工事	◎							
	ウォーキングマップ作成	-							
	ウォーキングルート整備	-							
	観光案内看板整備	-							
	主要地方道 岐阜県南大野線 道路改良工事 東海環状自動車道整備工事	○ -							

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も町民の意見を聞いて、満足度の向上を図る。 地域住民と協働した、活用(ソフト)の検討を実施する。				
-------	---	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標3								
指標名		道の駅の年間利用者数			バラまつり来訪者数								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	本庄下磯1号線	△	道の駅整備事業は大きな効果があった。大野神戸インターチェンジはR1年12月14日に開通したが、開通して間もないことから、年間の利用者数の増加分までは至っていないものの、今後の利用者数の増加が見込まれる。なお、西回りルートが全線開通することによる、利用客数の減少対策として道の駅の魅力度をアップさせることが重要である。	Ⅲ	△	過年度と比較し、バラまつりの来場者数が増加している点は評価できる。目標値に至っていない理由として、バラまつり開催期間が例年と比較し短いこと、バラの開花時期が早く、見ごろの期間が少なかったことが要因の一つであると考えられる。また、バラまつりの直前の大型連休に来場者が多かったことから、バラまつり期間中の来訪者が少なくなったことが考えられる。	Ⅲ						
	道の駅公園	△			-								
	備蓄倉庫	-			-								
	五之里下磯1号線歩道整備	-			-								
	道の駅(観光交流センター)	△			△								
	道の駅(子育て支援センター)	△			-								
提案事業	事業効果分析調査事業(大野町南部(2期)地区)	-			-								
関連事業	道の駅整備工事	△			-								
	ウォーキングマップ作成	△			△								
	ウォーキングルート整備	△			△								
	観光案内看板整備	△			-								
	主要地方道 岐阜県南大野線 道路改良工事 東海環状自動車道整備工事	△ △				- -							

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	HPやSNSを活用するなど、施設のPRを強化し、利用促進を図る。指定管理者と協力し、道の駅の魅力度をアップさせる。道の駅と町内イベント、観光施設、文化施設それぞれにおいて、連携を強化する。	HPの情報発信を充実させるなど、施設のPRを強化し、利用促進を図る。道の駅と町内イベント、観光施設、文化施設それぞれにおいて、連携を強化する。		
------------------	--	---	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備事業(大野町南部(2期)地区)事後評価庁内検討会議	関係各課係長級職員(総務部総務課、総務部政策財政課、民生部福祉課、産業建設部建設課、産業建設部農林課、産業建設部観光企業誘致課)	第1回 令和2年2月3日 第2回 令和2年2月13～14日庁内イントラネットによるやり取り)	産業建設部 観光企業誘致課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
インターチェンジの整備による、交流人口の増加に伴う、休憩施設を含む道の駅の整備	・公園(道の駅公園)、高次都市施設(観光交流センター)、高次都市施設(子育て支援センター)の整備により、休憩施設や地域交流施設に加え子育て支援施設が整備された。	・施設の年間利用者数の増加に向けて対策が必要である。	・特になし
地域住民と観光客が交流できる施設の整備	・公園(道の駅公園)、高次都市施設(観光交流センター)、高次都市施設(子育て支援センター)の整備により、地域住民と観光客が交流できる場が確保できた。	・特になし	・施設利用者の満足度をより一層向上させる必要がある。
町南部の防災拠点となる施設の整備	・公園(道の駅公園)、地域生活基盤施設(備蓄倉庫)の整備により、地域住民の防災に関する満足度が向上した。	・特になし	・整備した施設を活用して、より一層防災意識の向上を図る必要がある。
町内の観光施設をつなぐ周遊ルート	・道路(本庄下磯1号線)の整備により、町内の観光施設をつなぐ周遊ルートが整備され、回遊性が向上した。 ・道の駅の整備により、公共交通機関の充実が図られ、町内外の交通の利便性が向上した。	・周遊ルートが整備されたものの、観光入込客数やイベント来訪者数は増加していないため、対策が必要である。	・町民アンケートでも交通ネットワークに対する町民の満足度が低いことから、町民、運行事業者、近隣市町等と連携しながら、公共交通網のより一層の充実を図る必要がある。
観光施設及び文化施設のPR強化	・高次都市施設(観光交流センター)の整備により、町内の観光施設及び文化施設の情報を一層PRする場が確保できた。	・観光施設及び文化施設の来訪者数増加が確認されていないことから、PR方法や魅力的なPR内容とするなど、PRのさらなる強化が必要である。	・特になし

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	道の駅を拠点とした、地域住民と観光客の交流機会の継続	・定期的なイベントの開催や、自発的な活動を支援するソフト事業を実施する。 ・利用者ニーズに応じた、商品の販売、情報の提供を行い、魅力度をアップさせる。 ・「道の駅」の整備と合わせた商業施設等の整備・誘致を推進する。	・ソフト活動支援事業 ・利用者促進PR事業 ・大野神戸IC周辺整備事業 ・「道の駅」における農産物特売施設支援事業 ⇒だれもが集える「道の駅」プロジェクト事業
	防災に関する住民満足度の向上	・主たる基盤整備(ハード)は達成されたため、今後は地域住民と協働した、活用(ソフト)の検討が重要である。	・防災意識向上のPR事業 ・地域住民が参加した防災イベント事業
	周遊ルートの点検・維持管理の継続	・定期的な清掃活動、管理を実施する。 ・地域の目を活用した道路のメンテナンスサポートの促進を図る。	・清掃、維持管理事業 ・地域住民が主体となった道路維持管理事業

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	道の駅の利用者数の増加	・全国でのPRやSNSでの情報提供、PR動画やCM等の映像媒体の活用により施設のPRを強化し、利用促進を図る。 ・指定管理者と協力し、道の駅の魅力度をアップさせる。	・利用促進PR事業 ・連携イベント事業 ・道の駅魅力度アップ事業 ⇒だれもが集える「道の駅」プロジェクト事業
	観光施設、文化施設、イベント会場へのアクセス整備と周遊性の向上	・道の駅から各種施設、イベントへのアクセスルート、アクセス方法の整備を実施する。	・道路整備事業 ・各種施設、イベント会場へのアクセスルートや臨時バスの運行事業
	PR方法のさらなる強化	・道の駅と町内イベント、観光施設、文化施設それぞれにおいて、パンフレットの配布や割引券の提供等により、連携を強化する。 ・他の道の駅や町外の施設との連携を図る。 ・HP、SNS等での情報発信を行う。	・連携イベント事業 ・情報提供事業

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

特になし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	道の駅の年間利用者数	人/年	0	H27	500,000	H31	確定	●	416,109	△	あり	R2年内	令和元年岐阜県観光入込客統計調査結果を用いて、確定値を求める。	令和元年岐阜県観光入込客統計調査結果が公表され次第実施
							見込み	●						
指標2	防災拠点の住民満足度	%	9	H24	20	H31	確定	●	31	○	あり			
							見込み							
指標3	バラまつり来訪者数	人	44,000	H27	80,000	H31	確定	●	45,500	△	あり			
							見込み							
その他の数値指標1	路線バスの停留所数	箇所	69	H27			確定	●	71					
その他の数値指標2	道の駅(子育て支援センター)の	人/年	0	H27			見込み	●	70,000			R2年内	令和元年利用者数集計結果を大野町民生部福祉課より借用。	令和元年利用者数集計結果が確定次第実施

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	指標1、3の数値結果は、毎年度数値が整理されている岐阜県観光入込客統計調査結果を活用しているため、数値の集計を容易に実施することができた。また、見込値のフォローアップにおいても、数値が確実に整理されるため、容易に実施が可能である。	毎年データが算出される指標を設定すると、評価が容易となるため、指標を設定する際には計測のことも考慮するとよい。 数値目標の決定の際は、数値の算出根拠を明確にするとよい。
	うまくいかなかった点	数値目標の設定方法の精査が不足したため、現実的ではなく希望的な数値目標としてしまった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	指標2では、アンケート対象者を計画区域より200人(町内区長より選出)+消防団20人とし、対象者がある程度選定したことで、無作為のアンケートよりも回収率が向上し評価の信頼性を高めることができた。	評価を比較する際は、条件の整合を図ることが重要である。
	うまくいかなかった点	特になし	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	住民の意向を把握した上で事業展開をしたことにより、満足度の向上につながった。	事業立案時における市民意向を反映することにより、事業において満足度が向上し、計画的なまちづくりが推進しやすい。
	うまくいかなかった点	特になし	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	
その他	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	

添付様式6－参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	大野町のHPに掲載	R2.2.18～R2.3.10	R2.2.18～R2.3.10	担当課への 電話、FAX、電子メー ル、窓口	産業建設部 観光企業誘致課
広報掲載・回覧・個別配布	担当課の窓口での閲覧	R2.2.18～R2.3.10	R2.2.18～R2.3.10		
説明会・ワークショップ	—				
その他	—				

住民の意見	・特に意見はでなかった。
-------	--------------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	高木 朗義 岐阜大学工学部 社会基盤工学科 教授	令和2年3月16日(月)	大野町産業建設部観光 企業誘致課	大野町南部(2期)地区都市再生整備計画事後評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	羽賀 茂樹 大野町商工会 会長 松浦 正幸 まちづくりおおの協議会 会長 國枝 覚 第6区 区長代表 塩谷 和之 道の駅パレットピアおおの 店長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・対象外
	成果の評価	・売上高を数値目標にするなど、分かりやすい数字を今後は目標にすることを検討することとの意見があった。
	実施過程の評価	・芝生の植栽イベントを開催することで、多くの町民に道の駅事業に関わってもらい、楽しんでもらうことができたとの意見があった。
	効果発現要因の整理	・西回りルートが全線開通することによる、利用客数の減少対策として道の駅の魅力度をアップさせることとの意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表は妥当であると認められた。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・適正と認められた。
	フォローアップ	・適正と認められた。
	その他	・交通量の増加により、危険性が増えたため、安全性の向上を図ることとの意見があった。 ・大野神戸ICの案内標識設置を検討してはどうかとの意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・大野神戸IC周辺の(都)大垣神戸大野線の東側には病院が整備予定であるため、道の駅との連携を図るとよい。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

対象外

有識者の意見	
--------	--